

特定非営利活動法人ビーポップ
2023年度（令和5年度）事業報告

【概観】

2023年度は、障害者生活支援センターなどから、「他事業所で受け入れが難しいとされる方」の相談をよく聞くようになった。株式会社などの一般企業も広く福祉に参入できるようになっている昨今。事業所が増え、サービス提供が多くされるようになっているが、そのサービスの質が問われ、福祉事業者が効率性や利益を追求する結果、必要な人に必要な支援が行き届かない現状がある。そのような中、当事業所ではその人に合わせた支援や、また正面から向き合う中で作られる関係の重要性を実感することができたと考える。

実習生の受け入れやアルバイトの福祉施設への就職など人材育成については力を入れることができた一方、人材確保には至っていない。

施設の修理・修繕も行うことができなかったが、財政面での改善はされてきているため、次年度での修繕が見込まれる。

【①障害児・者の一時預かり事業及び余暇支援事業】

当団体は現在、さいたま市・戸田市・川口市・蕨市・朝霞市・越谷市・草加市・鴻巣市における「生活サポート事業」に、登録している。また、放課後等デイサービス事業を実施している。（③障害福祉サービス参照）

実績は下記の通りである（全市合計）。参考として（）内に、一昨年度の実績を記してある。

- ・余暇支援事業（シップの開催） 延 280 開催（268 開催）
- ・一時預り（生活サポート） 延 5345.5 時間（4407 時間）
- ・宿 泊 延 36 泊（54 泊）

シップも概ね予定通り、ニコニコランランもほぼ月2回ペースで開催できた。2023年度はマラソン組とウォーキング組を分けたため、シップの開催数が増えている。

また、イベントの再開などにより、一時預かりの延べ時間数はさらに増えている。

宿泊については、緊急対応で宿泊をしていた方のグループホームへの入居が決まり、数字としては昨年度より少なくなっている。

しかしながら、定期的な宿泊を楽しみにしている方がいたり、保護者入院などの理由による宿泊も多くあった。2024年度も宿泊へのニーズがあることが見えており、引き続き柔軟に対応していきたい。

2023年度のビーポップの「イベント事業」としては、下記のものが挙げられる。

・ニコニコランラン in 荒川	4/16 【6名】
・といろで BBQ	4/29 【5名】
・ポケット・ファンタジア（施設内イベント）	4/30 【4名】 9/10 【5名】 3/3 【6名】
・サマぷら（長野県佐久市・宿泊キャンプ）	7/23～24、8/20～21、8/27～28 【計12名】
・トビハネ DX（長野県佐久市・宿泊キャンプ）	7/29～31 9/23～25 【計13名】
・ニコニコランラン in 御牧原	10/8～9 【5名】
・出張イベント(in プラザノース 市民のつどいに参加)	12/10
・ビーポップ BBQ（霞ヶ浦）	3/24 【6名】
・ニコニコランラン in 荒川	3/30 【6名】
・カレーの日（施設内イベント）	3/31

トビハネ DX は、参加希望が多かったことにより2回開催となった。
 外出イベントへの要望も高まっている。スキップビーンズの企画も再開していきたい。

【② 広報及び活動還元活動】

ビーポップの継続的な「広報活動」としては、「ビーポップ・ニュース」と『ウェブサイト』の二つがある。ビーポップニュースはこれまで同様、月一度のペースで発行することができた。

しかし、更新できていない、ウェブサイトのテコ入れが求められる。

【③ 障害福祉サービス等】

2023年度の利用実績としては以下の通りである。参考として（）内に、一昨年度の実績を記してある。

・放課後等デイサービス	延	266日（123日）
・移動支援事業	年間	4179.5時間（約4184時間）
・福祉有償移送サービス		1303回（1174回）
・居宅介護支援		146時間（172時間）
		（身体介護 37.5時間 通院等介助 57.5時間 家事援助 51時間）

○放課後等デイサービス

「水遊びでGO！」8/11 8/15 8/18 8/22

水遊び企画として、大崎公園のじゃぶじゃぶ池と見沼ヘルシーランドのプールに行った。

新規利用者の受け入れをしたことで、利用日数の増加がそのまま数字に表れた。他のデイサービス事業所では手の届かないところを担う役割はできていると感じる。

問い合わせは引き続ききているため、可能な限り対応していきたい。

○移動支援事業

2023年度も、移動支援事業・福祉有償運送サービス事業を継続して行った。

2023年度のサービス提供時間は、2022年度と比較して1%減と、ほぼ同等となり、安定的な事業運営となったが、コロナ禍以前の2019年度（4,400時間）と比較すると縮小傾向は続いていると見ることも出来る。

○居宅介護支援事業

2023年度は実質的な事業開始2年度目となり、定期的な通院等介助や、日用品の買い物等の家事援助を行った。

利用時間数は減少したが、利用者の生活環境が劇的に変化する中での橋渡しのサービスとして活用されたり、緊急的な事案に対応することが出来、サービス自体の必要性を実感するものとなった。

今後、サービスの周知と、より多くのニーズに応える体制作りが課題となっている。

【④ 福祉分野に関わる研修・啓発等の事業】

・職員研修

職員・スタッフの人材形成として研修会への参加の実績は、下記の通りである。

11月15日	指定障害児通所支援事業者等研修会 「障害のある子どもへの支援の質の向上を目指して」1名
11月29日	「福祉有償運送者講習」1名
2月8日	桜区地域協議会「障害者虐待防止・権利擁護研修会」1名
2月15日	「福祉有償運送者講習」1名

2023年度は、研修の機会を多く設けることができなかった。研修を受ける余裕がなかったことも要因としてある。

また、スタッフの勉強会は下記の通りである。

- ・2月19日 自分たちの仕事を知ろう！

・社会福祉士相談援助実習の受け入れ

日本福祉大学、十文字学園女子大学より実習依頼があり、9月と3月にそれぞれ実習を行った。

【⑤ 障害者の社会参加をすすめる会」と共同する事業】

12月24日に、年末のパーティー「ドリーム・ディッセンバー」を行った。総勢75名の参加でにぎやかに1年が締めくくられた。

【⑥ その他の事業】

・募金活動

2024年1月1日に起こった『能登半島地震』を受け、会員の方に募金の呼びかけを行い、総額32395円が集まった。

・求人サイトの制作

人材確保につながるよう、外部委託を利用し、求人サイトを作成した。

・障害児通所支援事業所における安心・安全対策事業補助金

2024(令和6)年4月1日より、送迎車両の安全装置設置が義務化されている。上記補助金を受け、対象の車両2台に安全装置を設置した。